

2021年5月27日(木)に開催された第2回理事会(定例)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●第11期(2020年度)事業報告について

1. 事業の概況

今年度は、前年度に発生した新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、予定されていた2020オリンピック・パラリンピック東京大会(以下「東京2020大会」という)が1年延期されたことを始め、ほとんどの大会が中止または大幅な制限を受けた中で、すべてのカテゴリーの日本代表チームが活躍の場を失ってしまい、大変厳しい一年となった。

(1) 今年のトピックス

- ① 東京2020大会のテストを兼ねた有明アリーナテストマッチが中止となった。
- ② 第3回バレーボールネーションズリーグ(VNL)が京都府、富山県にて開催予定であったが中止となった。
- ③ 天皇杯・皇后杯は都道府県ラウンド、ブロックラウンドを中止し、ファイナルラウンド決勝戦のみ観客を入れて開催した。
- ④ 緊急事態宣言の発令などにより、3度にわたり事務局を閉鎖した。(3/31~5/31、8/4~8/16、1/13~3/21)

(2) 決算について

今年度はオリンピックの年として強化に全力を尽くすための赤字予算を計上したが、東京2020大会の延期に伴い事業を大幅に縮小した補正予算を計上した。その後もコロナ禍収束の目途が立たなかったためほとんどの事業の中止、大幅な縮小に至り、収入も大幅に減少したが、支出の減少がそれ以上に大きかったこと、大幅な社債の評価益が生じたことなどから最終的に黒字決算となった。

収入面では、当初予算2,274百万円から58%減の949百万円となり、支出面では当初予算2,546百万円の66%減の871百万円となった。前年度は社債の評価損を計上したが、今年度は評価益を131百万円計上したため、税引き後の最終利益は209百万円となった。

●第11期(2020年度)決算について

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第11期(2020年4月1日~2021年3月31日)の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

その他の点では、独立監査人である太陽有限責任監査法人より今後の貯蔵品管理の運用を強化するように指摘があった。

【決算の説明】

2020年3月の理事会で2020年度の予算が承認されたが、当初は経常収益規模で2,274百万円、経常費用規模で2,546百万円による収支▲272百万円の赤字予算であった。

2020年度が始まって以降、コロナの影響により、東京五輪の延期や各種大会の中止による大幅な予算縮小を受けて、8月の理事会では経常収益規模で771百万円、経常費用規模で1,297百万円による収支▲526百万円の赤字補正予算を組んだ。

今年度の決算は、収益については補正予算を上回る949百万円となった。当初運用益を固めに見積っていたが運用が好調であったこと、受取メンバー制度登録料については下期もコロナの影響により増額は見込めないと予測していたが、想定を2倍上回る結果となった。事業収益においては、小学生大会の参加料撤廃やルールブック製造中止による一部収益がマイナスとなる項目もあったが、それ以外の全ての項目で収益を上乗せすることが出来た。

費用については、補正予算に対してマイナスとなり871百万円となった。

補正予算の段階では下期には予定通りの活動実施を考えていたが、軒並み大会が中止となったため費用の大幅減額となった。

最終的な当期経常増減額は209百万円(うち評価益は131百万円)の黒字となった。

【正味財産について】

上記の結果、指定正味財産を含めた正味財産は210百万円増加し1,835百万円と、過去最高となった。

【公益認定法の3基準について】

なお、公益認定基準の三要件(財務三基準:「①公益目的事業比率」、「②収支相償」、「③遊休財産保有制限」)について現況の報告があり、「②収支相償」については事業の中止、縮小により支出が大幅に減少したため、126百万円と想定外の黒字となった。2021年度にこの黒字を公益事業に使用する予定であるが、その取り扱いについては、内閣府と相談のうえ進めていく。

●定時評議員会の開催及び目的事項について

2021年度定時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項(議題)として、以下の決議事項2件、報告事項2件とすることを提案いたします。

1.日 時: 2021年6月17日(木)14:00~17:00

2.場 所: 都内会議室
※WEB開催や開催場所変更の可能性あり

3.決議事項

(1) 第11期(2020年度)計算書類等の承認の件

第11期2020年4月1日から2021年3月31日までの計算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録)の承認を受ける件

(2) 理事選任の件

任期満了に伴い、定款の定めによる理事 15 名以上 20 名以内選任の件

4. 報告事項

(1) 第 11 期(2020 年度)事業報告の件

(2) 理事の任期満了について

● 寄付金取扱規程について

6 月に新しい取り組みとして、寄付金募集をホームページに掲載する予定でいる。現行の規程では広く一般に寄付金を募集することが出来ないため、バレーボールの魅力を広め、その活動に理解を深めてもらうためにも、寄付金規程の改定を提案したい。

現行の規程では、寄付金の申し込みがあった都度その内容を稟議し、受け入れをするというやり方に対応した内容であるが、新規程では一般寄付金(広く一般社会に常時募集活動を行うことにより受領する寄付金)の条項を設け、さらに将来の寄付金の募集方法に幅を持たせるために特定寄付金(使途を特定して、広く一般社会に一定期間募集を行うことにより受領する寄付金)、特別寄付金(個人または団体から受領する寄付金)の条項を盛り込む。

既に他競技団体(日本ラグビーフットボール協会、日本テニス協会、日本陸上競技連盟等)で、ほぼ同一内容の規程により運営していることから、これに倣った形で全面改定する。

※寄付金取扱規程の詳細については資料に記載の通り

< 報告事項 >

● 2021 年度第 1 四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2021 年度第 1 四半期の職務執行報告が会長及び業務執行理事、事業本部長、室長より行われた。主な報告内容は下記の通りである。

【嶋岡会長】

- ① 役員候補者推薦委員会出席
- ② 男女日本代表チームリモート記者会見出席
- ③ 中国男女チーム来日歓迎の出迎え
- ④ 日本赤十字社来会対応
- ⑤ FIVB 理事会(WEB)出席

【鍛冶業務執行理事／事務局長】

- ① Vリーグ機構理事会(WEB)出席
- ② JOC とのインテグリティ教育に関する打合せ
- ③ 排球堂(株)取締役会出席
- ④ 組織委員会定例会議出席
- ⑤ コンプライアンス委員会開催

【鳥羽業務執行理事／HP 事業本部長】

- ① 男女強化合宿再開
- ② 東京五輪に向けての各種準備
- ③ 選手・スタッフへのワクチン接種交渉
- ④ 東京チャレンジ国際親善試合開催(有明アリーナ)
- ⑤ 男子紅白戦・イベント開催(高崎アリーナ)

【高野業務執行理事／ビーチバレーボール事業本部長】

- ① 女子ビーチ代表決定戦参加選手説明会開催
- ② 藤沢市役所表敬訪問・スポンサー訪問
- ③ 自民党スポーツ立国調査会出席
- ④ BVT1 立川立飛大会開催
- ⑤ ビーチ女子代表決定戦開催(立川・立飛)

【村上業務執行理事／大会運営事業本部長】

- ① 全日本クラブカップ男・女選手権開催地合同連絡会議・実行委員会(WEB)参加
- ② スノーバレーボール大会開催についての打ち合わせ
- ③ 黒鷲旗大会主催者・実行委員会(WEB)出席
- ④ 全国ブロック臨時理事長会(WEB)出席
- ⑤ 第 41 回全日本小学生大会打ち合わせ

【紀伊業務推進室長】

- ① 新入職員受け入れ対応
- ② 渋谷労働基準監督署訪問(今年度時間外労働・休日労働協定届提出)
- ③ JVA ガバナンス推進会議出席
- ④ JSC S/I ユニットリモート会議出席
- ⑤ 監事会、監査法人合同報告会出席

【灰西指導普及本部長】

- ① 指導普及事業の実態検証
- ② 体罰・暴力・ハラスメント相談(通報)と処分プロセスの検証
- ③ 事業整理と改善策の策定を行う

●功労者Ⅱ表彰報告について

第 12 期(2021 年度)第 1 回功労者Ⅱ表彰者

・上野富治 和歌山県バレーボール協会 副会長

●中期経営計画(2022～2024 年度)検討状況について

2018 年 10 月の理事会で承認された中期経営計画を現在遂行中であるが、この中期経営計画を策定した背景は、以下のとおりであった。

これまでは、バレーボールの国際大会(五輪、グラチャン、世界選手権、ワールドカップ)を日本において 4 年サイクルで開催していれば一定度の収益が得られ、TV 放映によりバレーボールファンが拡

大するといった成長の構図が描けていた。

しかし、日本のバレーボール界を取り巻く環境は大きく変化した。国際大会の開催の費用が大幅に膨らみ収支が厳しくなり、国際大会の誘致合戦により、日本での開催も難しくなったため、4年サイクルによる成長の構図が描けなくなってしまった。

さらには、東京五輪開催後に助成金の大幅な削減や協賛金の減少も予想され、2020年以降は、JVAの存続すら危ぶまれる中で、中期経営計画(2018～2024年度)は策定された。

2018年の策定時には、2020年までに累積で10億円の赤字を予想していたが、正味財産についていえば、2017年度16億円から2020年度には2億円増やす18億円と過去最高水準となった。

しかしながら、東京五輪以降の厳しい経営環境には変わりはなく、財務改革の断行は必須となっている。そこでオリンピックが開催される2021年度において足元の経営状況を一度整理して、2022年～2024年までの間に安定した財務体制の構築を目指すため、中期経営計画を修正した新中期経営計画(2022～2024年度)の理事会承認を目指して、現在策定作業を進めている。

今後理事の皆様からの意見もいただき、6月以降の理事の新体制のなかで新中期経営計画の策定作業を行い、10月の理事会で承認をいただきたい。

●東京2020大会に向けた強化報告について

(インドア:鳥羽業務執行理事より)

- ・現在イタリアで行われているVNLに出場する男女日本代表チームの各登録選手17名の紹介
- ・東京五輪代表選手の決定時期について

(ビーチ:高野業務執行理事より)

- ・「東京2020ビーチバレーボール日本代表チーム決定戦」女子立川立飛大会が5/22～23に行われた。優勝チームの石井美樹・村上めぐみペアが東京五輪の出場権を獲得し、チームリーダー:川合庶氏、女子コーチ:望月剛氏、女子トレーナー:田中修二氏のスタッフ体制が決定した。
- ・男子大会は同日に大阪大会の実施を予定していたが、コロナの感染リスクを考慮し、大会を延期とし、6/5～6に立飛ビーチで完全無観客開催とする。大会終了後にチーム編成を決定する。

上記とは別に、タイでアジアのコンチネンタルカップの第2フェーズが6/18～19に、第3フェーズが6/25～27に開催され、男子は牛尾正和監督が2チーム+補欠の1チームの計3チームを帯同する予定となっている。女子は川合庶監督のもと、代表決定戦準優勝チームの鈴木千代・坂口由里香ペアと、ジャパントアで優勝した長谷川暁子・二見梓ペア、補欠に橋本涼加・村上礼華ペアを帯同し、コンチネンタルカップでもう一枚の五輪出場切符獲得をめざす。

以上